

第61巻・第1号 平成25年1月1日発行

# 牧草と園藝

今こそ自給飼料を増産しましょう!

2013年 1月

〈新年号〉



# 謹賀新年



平成25年の新春を迎え、皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

一昨年（2023年）の東日本大震災による甚大な被害は、今なお農業・環境に係る現場において大きな影響を与えており、安全な農畜産物の生産や農耕地の除染など復興へ向けにご尽力されている関係者の皆様のご苦勞に心より敬意を表します。

昨年は、約半世紀ぶり（2007年）とされるアメリカ中西部での大干ばつによってトウモロコシや大豆などの穀物需給が逼迫し、世界的な食糧供給不安や食料価格の上昇を招きましたが、日本国内においても一昨年に続く猛暑の中で、新潟・福島や九州北部をはじめ各地で記録的な豪雨や台風による被害が見られました。近年、世界各地で頻発する干ばつや洪水などの異常気象は、中国やインドなどの新興国の経済成長による需要構造の変化とも併せて穀物相場を高騰させる要因となっており、食糧のみならず飼料原料穀物需給の逼迫、また、種子生産・供給の不安定化など、農業分野においても多大な影響を及ぼしてきております。

経済・社会のグローバル化が進んでいく中、わが国の農業は、生産物価格の低迷や後継者育成の遅れなどから国内生産力・供給力の脆弱化が指摘される一方で、新興国の経済成長と世界的な気候変動を背景とした中期的な穀物需給の逼迫や生産コストの上昇が避けられない状況にあり、経済連携協定への対応とともに、かつてない厳しい状況に直面しており、水田や耕作放棄地の有効活用、食品副産物等の未利用資源の利用拡大など、国内資源をフル活用した生産基盤の確立、国内生

産力の強化が重要な課題であります。このような中、昨年、牧草地の除染対策として行われた草地表土の反転耕起は、草地の完全更新と同様の作業であり、表層攪拌・ロータリー耕とも併せて今後の草地の生産性向上につながるものと考えております。今なお原発事故の影響に苦しまれる皆様のご苦勞にあらためてお見舞いを申し上げますが、「災い転じて福となす」の喩えのように、草地の反転耕起による除染を生産性の向上、良質な自給粗飼料の生産拡大につなげる契機としていただき、国産飼料基盤に立脚した足腰の強い酪農・畜産経営の確立につなげていただければと念じております。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念とし、牧草・飼料作物種子や乳牛用・肉牛用の配合飼料製品、サイレージ用乳酸菌などの酪農・畜産分野を中心に、緑肥作物や野菜種子また、芝草種子・緑化技術などの環境緑化分野まで幅広い分野で事業を展開しておりますが、今こそ長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、牧草・飼料作物など自給飼料を活用した生産基盤強化への貢献とともに、緑肥作物を活かした環境保全型農業の推進や自然・生態系に配慮した緑化用草種・技術の開発などを通して、日本の農業、酪農・畜産業の発展、持続型社会の構築へ向けた役割を果たしていきたいと考えております。

本年も農業、酪農・畜産の生産現場から幅広い生活分野に至り、数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ち致しております。

新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成25年 元日

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 掛村 博之